

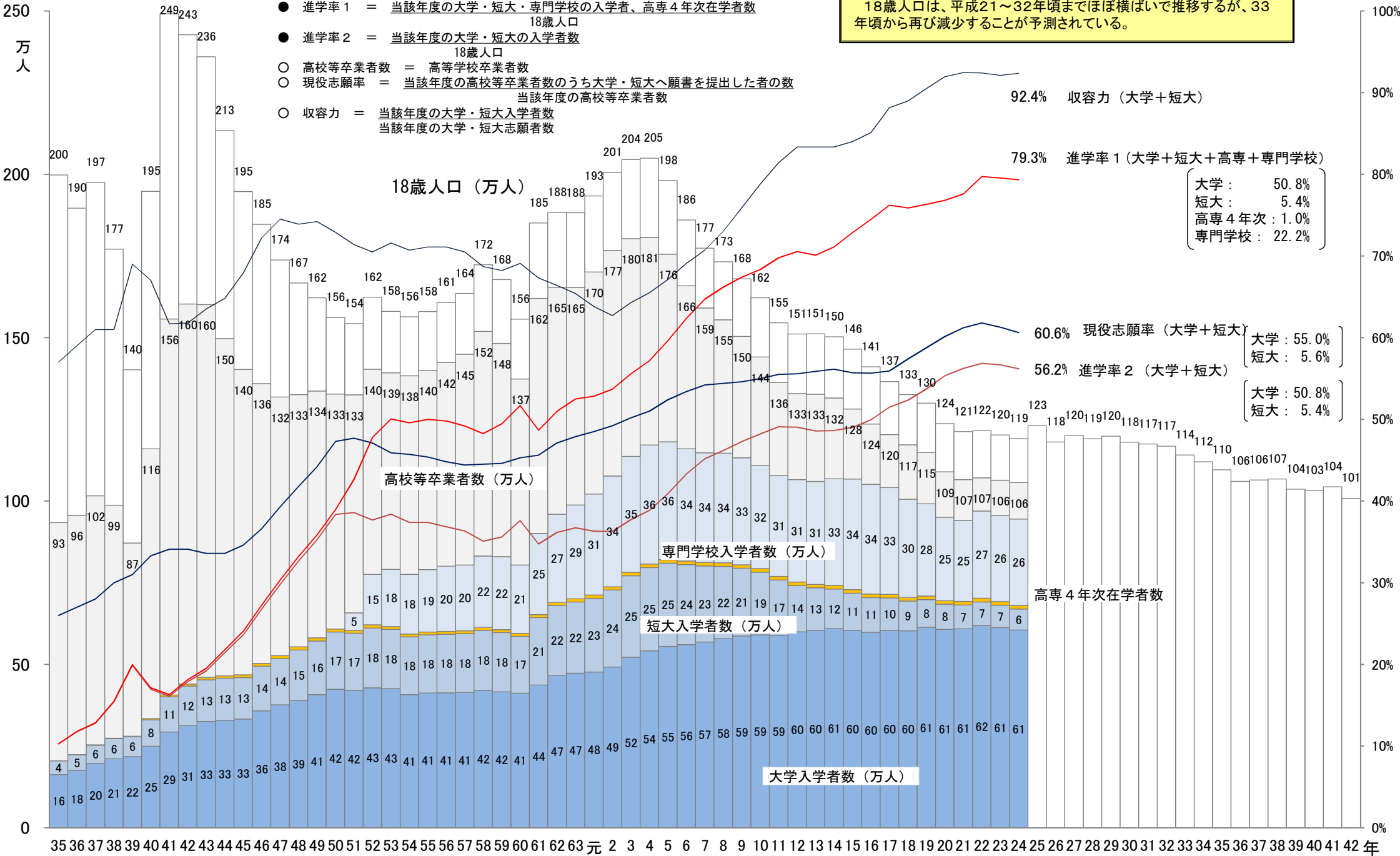
高大接続に関する参考データ

1. 大学の進学率等の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P1～2
2. 高等学校と大学との連携の状況等・・・・・・・・ P3～6
3. 大学入学者選抜について・・・・・・・・・・・・ P7～13

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

- 18歳人口 = 3年前の中学校卒業生数
- 進学率1 = $\frac{\text{当該年度の大学・短大・専門学校の入学者数}}{\text{18歳人口}}$
- 進学率2 = $\frac{\text{当該年度の大学・短大の入学者数}}{\text{18歳人口}}$
- 高校等卒業生数 = 高等学校卒業生数
- 現役志願率 = $\frac{\text{当該年度の高校等卒業生数のうち大学・短大へ願書を提出した者の数}}{\text{当該年度の高校等卒業生数}}$
- 収容力 = $\frac{\text{当該年度の大学・短大入学者数}}{\text{当該年度の大学・短大志願者数}}$

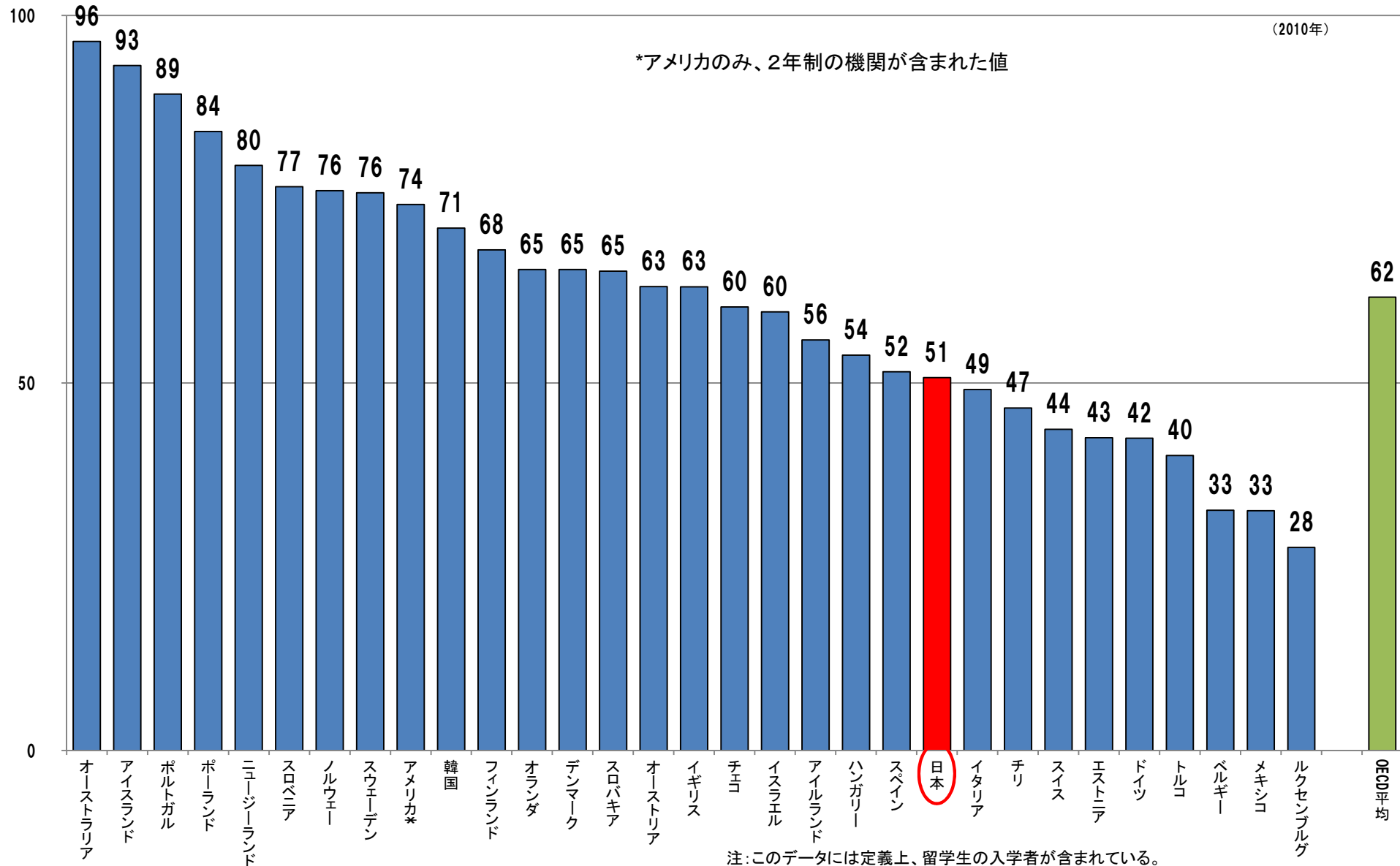
18歳人口は、平成21～32年頃までほぼ横ばいで推移するが、33年頃から再び減少することが予測されている。



出典: 文部科学省「学校基本調査」、平成37年～42年度については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(出生中位・死亡中位)」を基に作成

大学進学率の国際比較

日本の大学進学率は上昇してきたが、OECD平均に比べると高いとは言えない。(日本:1995年 31% → 2000年 40% → 2010年 51% OECD:62%)

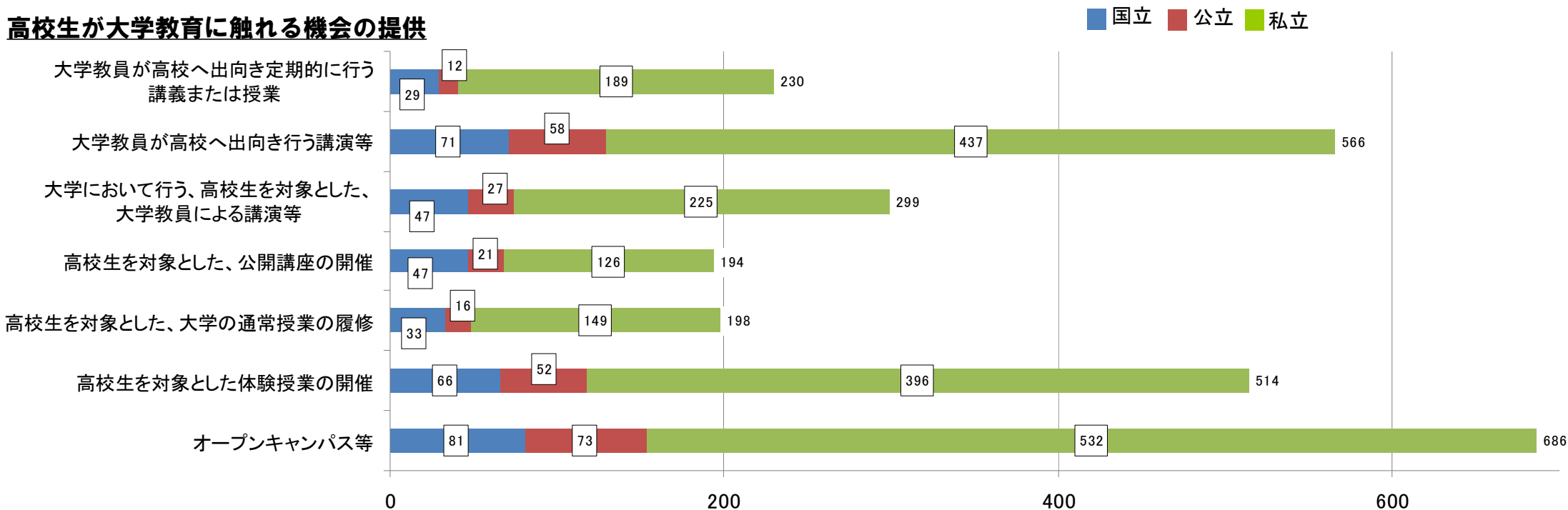


※OECDは、留学生が進学率に及ぼす影響を明らかにするため、データのある国については、留学生を除外した調整後の値を示している。
日本は留学生の在籍者数は把握しているが、入学者を区分して調査していないため、留学生を除くことができない。

高等学校と大学との連携の状況

① 高校生が大学教育に触れる機会の提供（平成21年度）

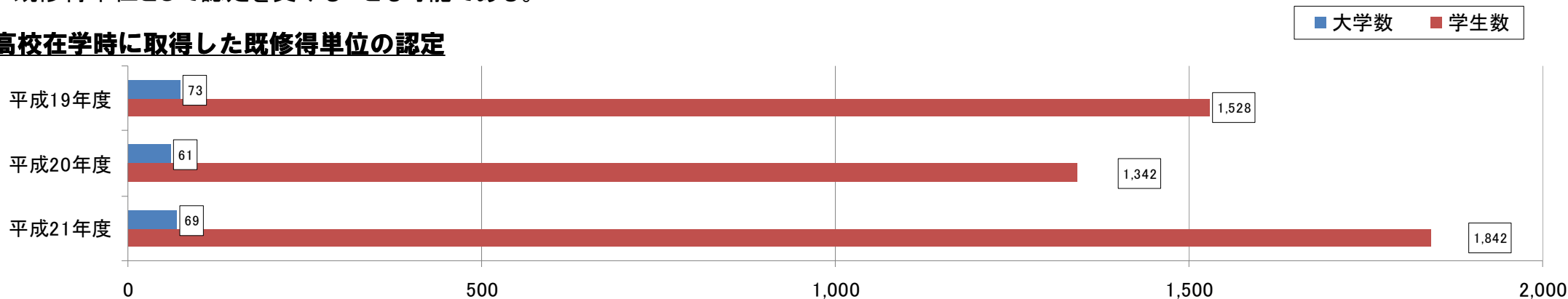
高校生が大学教育に触れる機会の提供



② 入学前の既修得単位の認定

現在、高校生が大学の科目等履修生として大学の授業科目を受講する取組も広がっており、その成果として取得した大学の単位は大学入学後に既修得単位として認定を受けることも可能である。

高校在学時に取得した既修得単位の認定



大学へのいわゆる「飛び入学」について

※ いわゆる「飛び入学」とは、特定の分野について特に優れた資質を有する学生が高等学校を卒業しなくても大学に入学することができる制度。

制度概要

○対象者に係る要件

- ・大学の定める分野における特に優れた資質を有すること
- ・高校に2年以上在学したこと

○受け入れ大学に係る要件

- ・大学院が置かれ、かつ、教育研究上の実績及び指導体制を有すること
- ・特に優れた資質の認定に当たって、高校の校長の推薦を求める等、制度の適切な運用を工夫していること
- ・自己点検・評価の実施及びその結果の公表を行うこと

経緯

- ・平成9年 数学又は物理学の分野に限定して大学への「飛び入学」を制度化（学校教育法施行規則の改正）
- ・平成13年 対象分野の制限を撤廃・学校教育法上の位置付けを明確化（学校教育法の改正）

大学への「飛び入学」の実施状況

大学名	制度導入年度	平成25年度入学者	累積入学者数
千葉大学(国立)	平成10年度	4人	72人
会津大学(公立)	平成18年度	0人	4人
昭和女子大学(私立)	平成17年度	0人	1人
成城大学(私立)	平成17年度	1人	2人
名城大学(私立)	平成13年度	0人	26人
エリザベト音楽大学(私立)	平成17年度	0人	1人

大学の秋季入学について

4月以外の時期に大学・大学院に入学する者の数は近年増加傾向であり、特に大学院において増加が顕著。

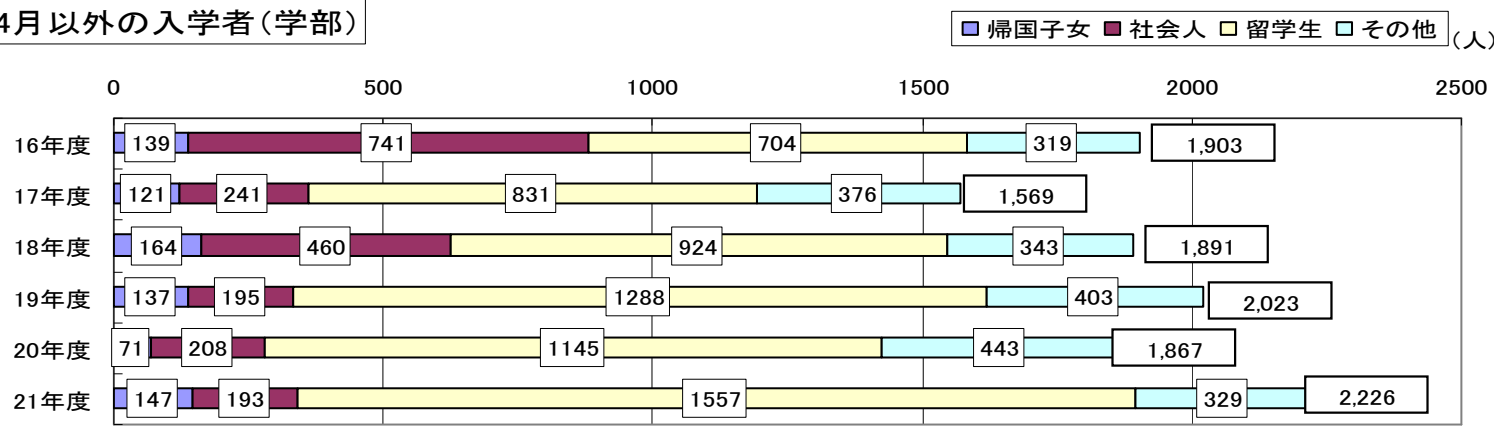
教育再生会議第二次報告(平成19年6月)等を踏まえ、帰国生徒や留学生の受け入れや、若者が多様な体験をする機会の充実の観点から、学校教育法施行規則を改正(平成20年4月1日施行)、大学の入学時期の更なる弾力化を行った。

学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)

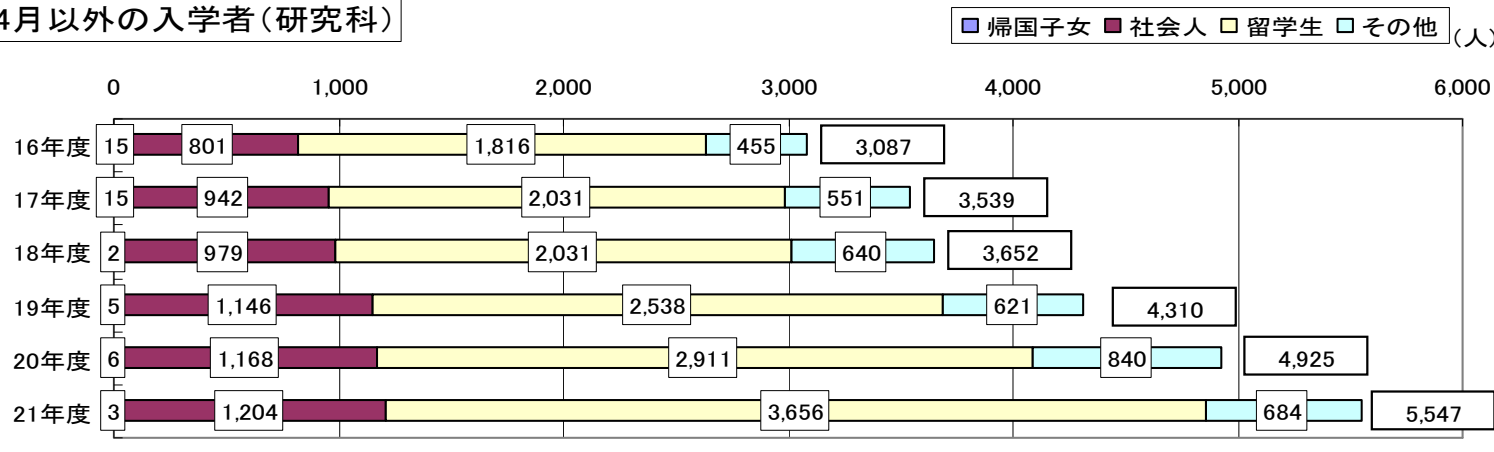
第163条 大学の学年の始期及び終期は、学長が定める。

2 大学は、前項に規定する学年の途中においても、学期の区分に従い、学生を入学させ及び卒業させることができる。

4月以外の入学者(学部)



4月以外の入学者(研究科)



・学部段階で4月以外の時期に実際に入学者を受け入れている大学

平成21年度 115大学
(国立18大学、公立4大学、私立93大学)

・大学院段階で4月以外の時期に実際に入学者を受け入れている大学

平成21年度 209大学
(国立67大学、公立20大学、私立122大学)

※ 通信制大学、短期大学、及び放送大学を除く。

※ 平成21年度の調査対象大学は752校[22]

内訳: 国立86校[4]、公立77校[2]、私立589校[16] ([]は内数で大学院大学を示す。)

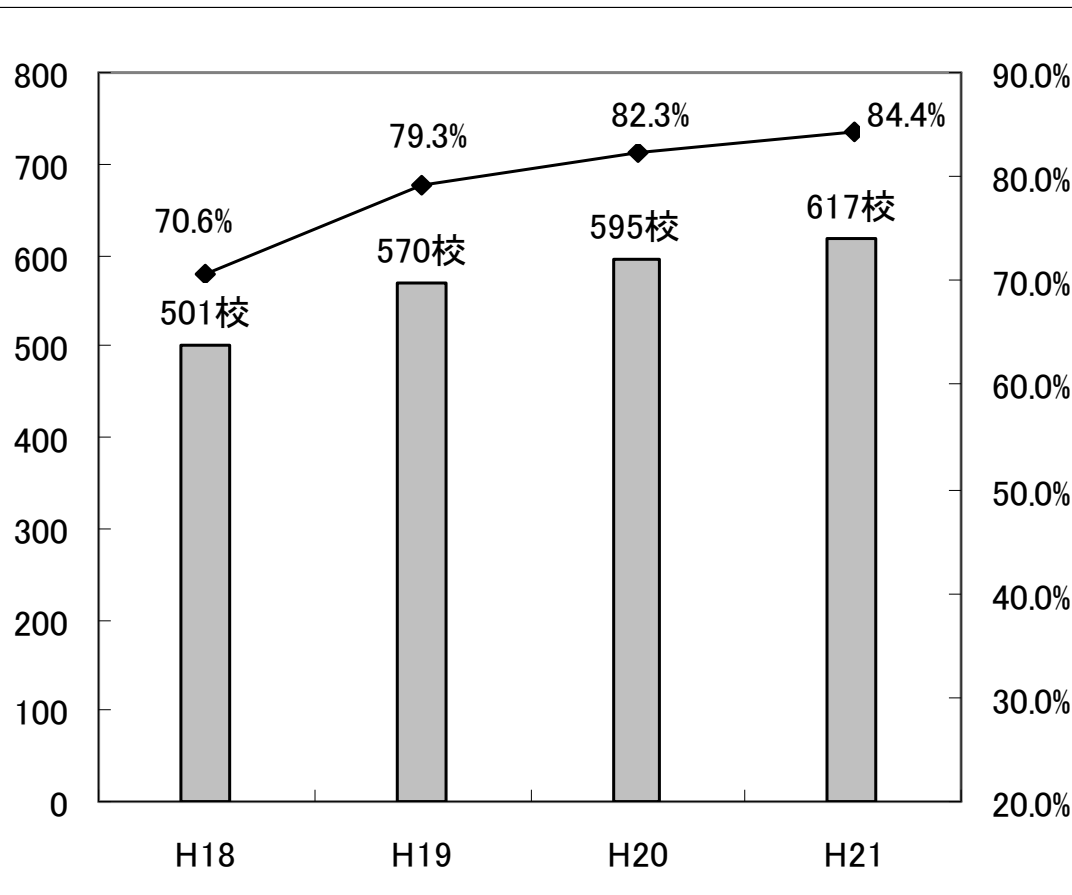
出典: 文部科学省「大学における教育内容の改革状況について」

初年次教育の実施状況

大学進学者が多様化する中、多くの大学では、大学教育への円滑な移行を図るための初年次教育を実施している。

[参考] 初年次教育: 高校から大学への円滑な移行を図るため、大学新生を対象に作成される総合的教育プログラム。
新生に大学教育の最初において提供されるものであり、高等学校で学ぶべきことを補完する補習教育とは異なる。

○初年次教育の実施状況(大学学部の状況)



○初年次教育の具体的内容(例)

- レポートや論文の書き方などの文章作法
- プレゼンテーション、ディスカッションなどの口頭発表技法
- コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術
- フィールドワークや調査・実験の方法
- 情報収集や資料整理の方法
- 論理的思考や問題発見・解決能力の向上
- 学問や大学教育全般に対する動機付け
- 将来の職業生活や進路選択に関する動機付け
- 社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観
- メンタルヘルスなど、精神・身体的健康の保持
- 学生生活における時間管理や学修習慣

文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」より作成

大学入学者選抜の現状

【大学入試の基本的な考え方】

大学がどのような選抜でどのような入学者を受け入れるかについては、各大学・学部等の入学者受入方針に基づき実施するものであり、各大学においては、入学者受入方針に基づき、その入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定するため、様々な取り組みを実施。

文部科学省としても大学入試を実施する上でのガイドラインとして大学入学者選抜実施要項を毎年度、大学に通知し、入学者受入方針の明確化や選抜方法の多様化、評価尺度の多元化を推進。

○平成25年度大学入学者選抜実施要項(関連部分抜粋)

第1 基本方針

各大学（短期大学を含む。以下同じ。）は、入学者の選抜を行うに当たり、入学志願者の大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）の教育を乱すことのないよう配慮する。

能力・適性等の判定に当たっては、高等学校段階で育成される学力の重要な要素（基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学習意欲）を適切に把握するよう十分留意する。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮する。

また、各大学は、当該大学・学部等の教育理念、教育内容等に応じた入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえた上で、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。

主な入試方法は以下のとおり。

(1) 一般入試

調査書の内容、学力検査、面接・小論文等大学が適当と認める資料や方法により判定する方法。

(2) 推薦入試

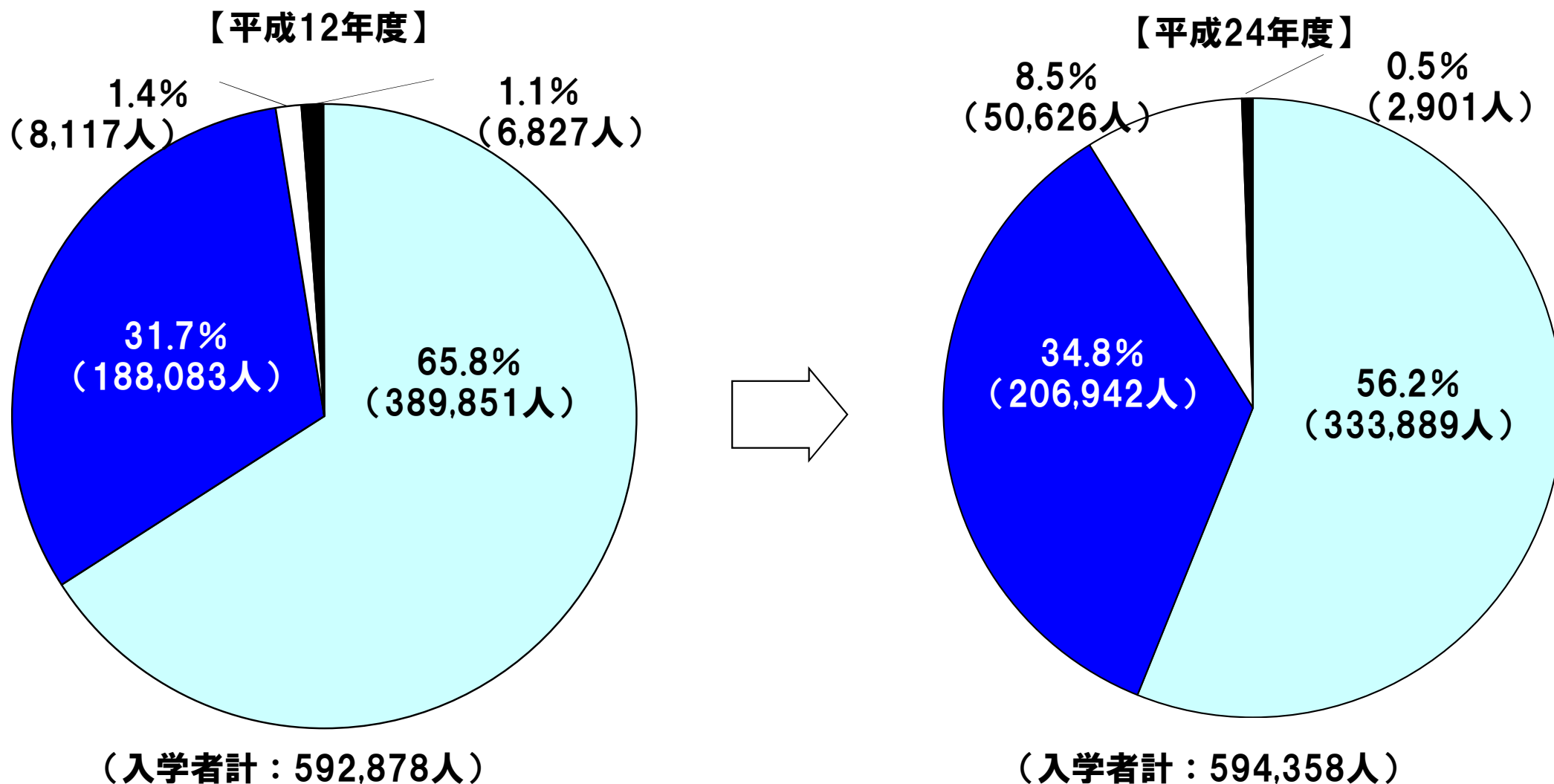
出身学校長の推薦に基づいて、原則として学力検査等を免除し、調査書を主な資料として、面接・小論文等を活用して判定する方法。

(3) アドミッション・オフィス入試(AO入試)

学力試験に偏ることなく、詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせ、受験生の能力・適性や学習に対する意欲・目的等を総合的に判定する方法。

平成24年度入学者選抜実施状況の概要（平成12年との比較）

平成12年度(AO入試調査開始年度)以降、推薦入試、AO入試を経由した入学者が大きく増加している。推薦・AO入試が事実上の学力不問となるなど、本来の趣旨と異なった運用になっている例がみられる。



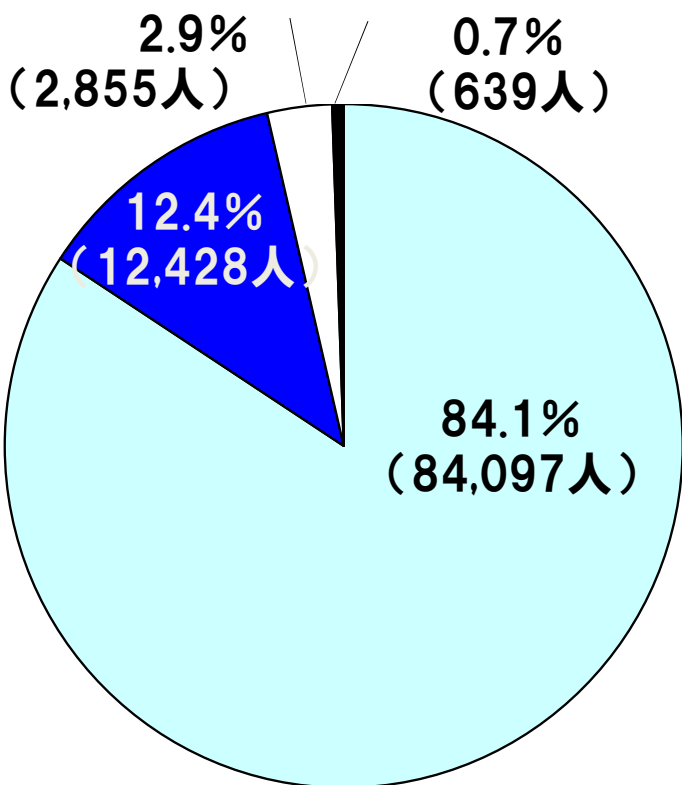
□ 一般入試 ■ 推薦入試 □ アドミッション・オフィス入試 ■ その他

(注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

平成24年度入学者選抜実施状況の概要（国公立別）

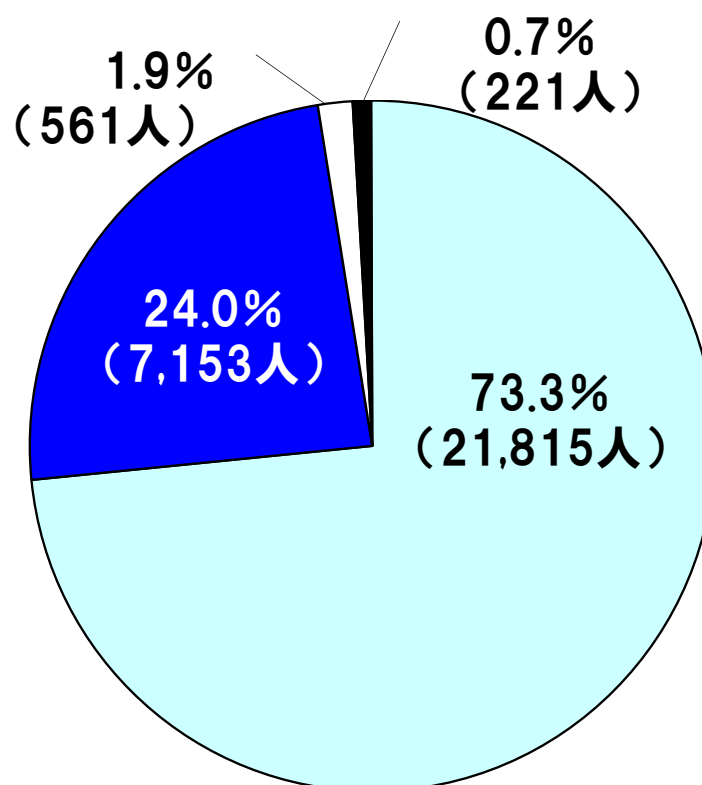
国公立大学では一般選抜が中心
私立では約半数がAO入試、推薦入試を經由して入学している

【国立大学】



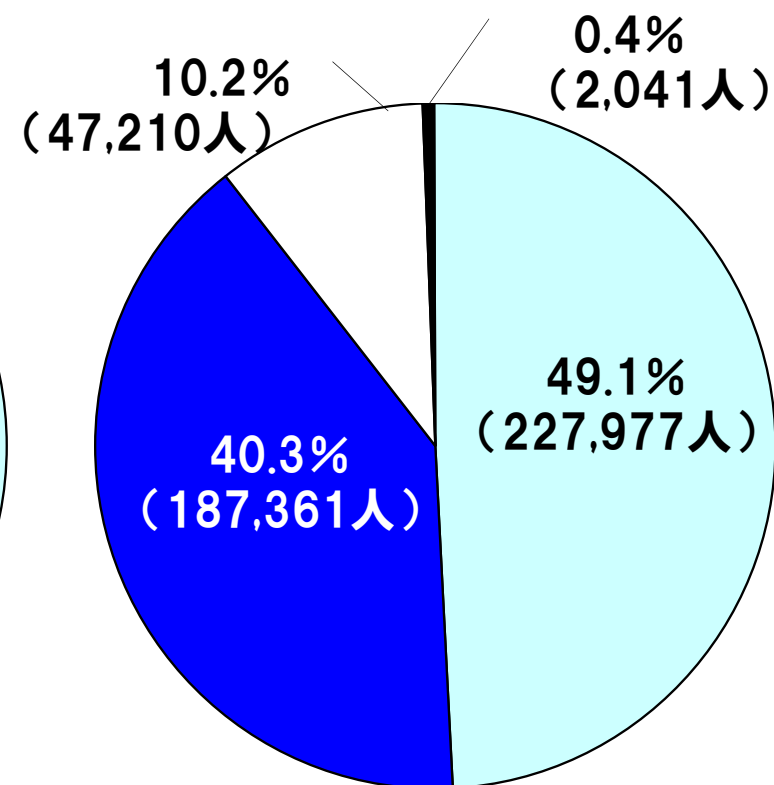
（入学者計：100,019人）

【公立大学】



（入学者計：29,750人）

【私立大学】



（入学者計：464,589人）

□ 一般入試 ■ 推薦入試 □ アドミッション・オフィス入試 ■ その他

大学入試センター試験の概要

【目的】

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を 判定することを主たる目的として、大学が共同して実施。

【平成25年度大学入試センター試験】

1. 試験期日

- ・ 本 試 験：平成25年1月19日（土）
20日（日）
- ・ 追（再）試験：平成25年1月26日（土）
27日（日）

3. 志願者数、利用大学数等

- ・ 志願者数：573, 344人
[対前年度+17, 807人]
 - ・ 試験場数：707会場
[対前年度▲2会場]
 - ・ 利用大学数：683大学
[対前年度+9大学]
157短期大学
[対前年度▲4短期大学]
(国公私別)
- | | | |
|----|---------|--------|
| 国立 | 82大学 | [100%] |
| 公立 | 81大学 | [100%] |
| 私立 | 520大学 | [90%] |
| 公立 | 15短期大学 | [83%] |
| 私立 | 142短期大学 | [43%] |

【時間割】

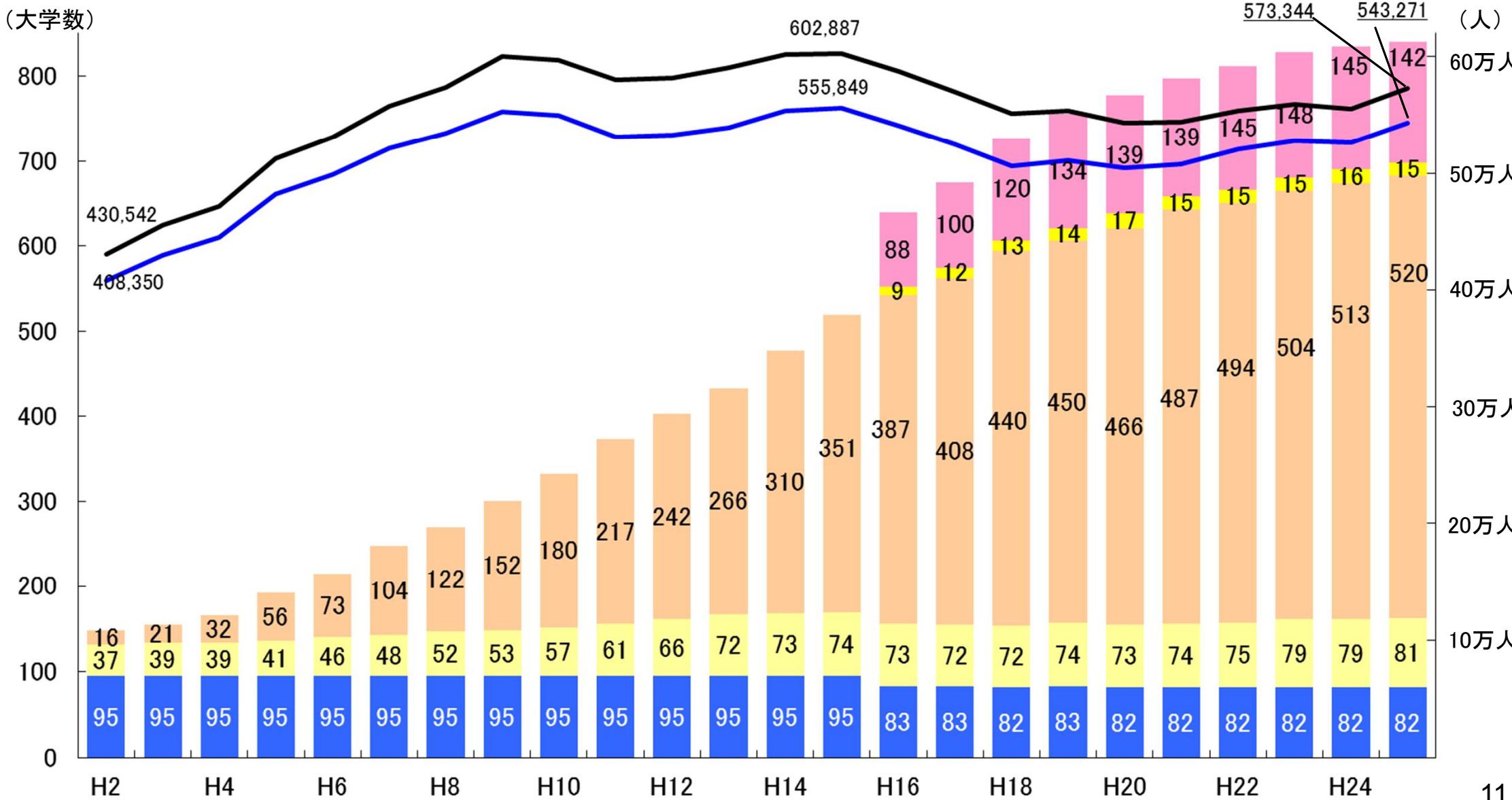
※出題教科科目数 6教科29科目(第1回(平成2年) 5教科18科目)

試験日	試験教科・科目	試験時間
第1日	地理歴史：「世界史A」「世界史B」 ：「日本史A」「日本史B」 ：「地理A」「地理B」	2科目選択 9:30～11:40 1科目選択 10:40～11:40
	公民：「現代社会」「倫理」 ：「政治・経済」 ：『倫理, 政治・経済』	
	国語：『国語』	13:00～14:20
	外国語：『英語』『ドイツ語』 ：『フランス語』『中国語』 ：『韓国語』 ： ：	【筆記】 15:10～16:30 【リスニング】 『英語』のみ 17:10～18:10
第2日	理科：「理科総合A」 ：「理科総合B」 ：「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」 ：「生物Ⅰ」「地学Ⅰ」	2科目選択 9:30～11:40 1科目選択 10:40～11:40
	数学①：「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	13:00～14:00
	数学②：「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』 ：「工業数理基礎」 ：『簿記・会計』 ：『情報関係基礎』	14:50～15:50

大学入試センター試験参加大学数及び志願者・受験者数の推移

○平成2年度の第1回試験から平成25年度試験で24回目の実施(平成18年度試験から英語リスニングを実施し、平成25年度試験で8回目の実施)。
 ○参加大学については、第1回から年々増加しており、平成25年度試験参加大学数は国公私合計840大学(うち157短期大学)。
 ○志願者数については、平成15年度試験の602,887人がピーク。平成25年度試験の志願者数は573,344人(対前年17,807人増)。

■ 国立大学 ■ 公立大学 ■ 私立大学 ■ 公立短期大学 ■ 私立短期大学 — 志願者数 — 受験者数



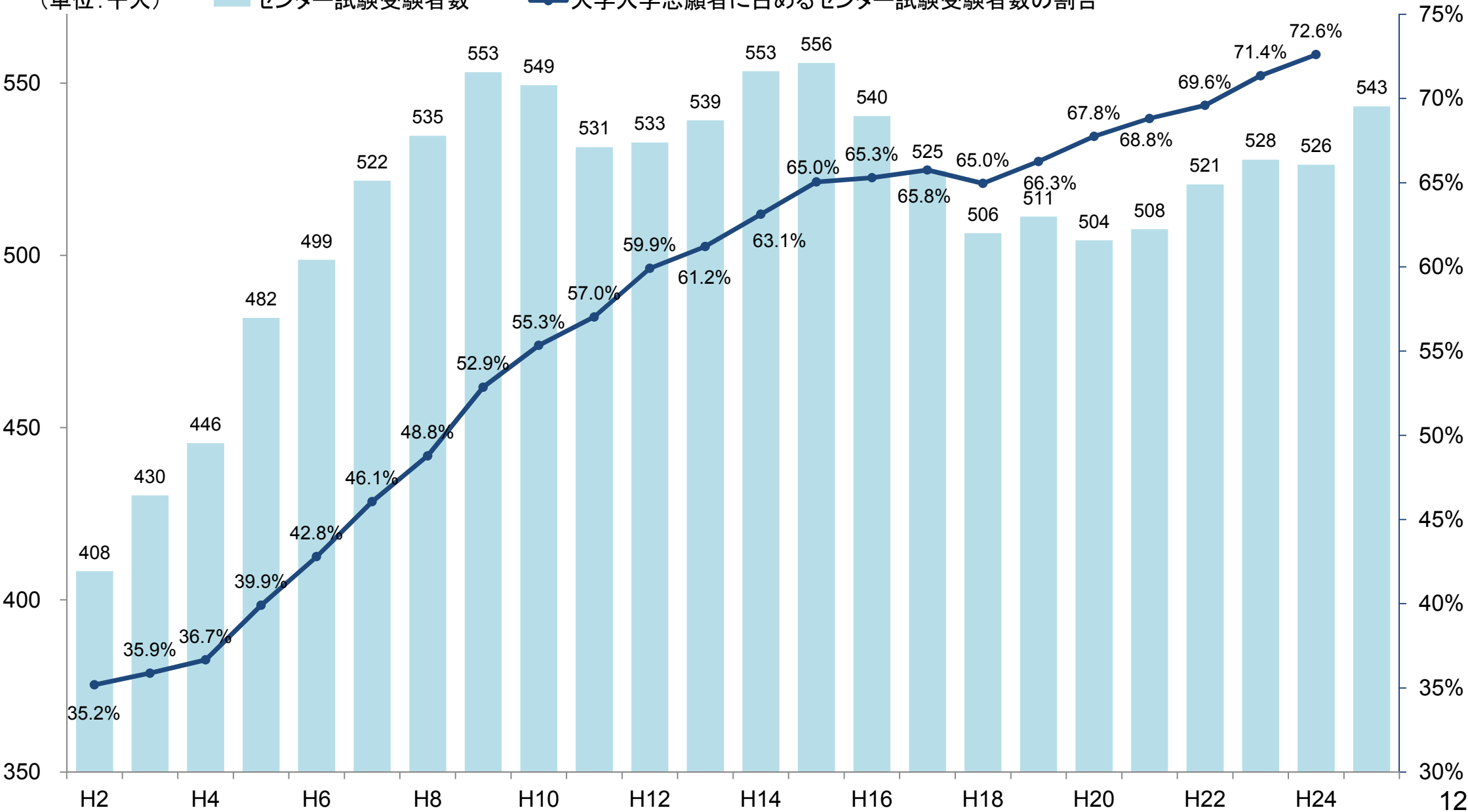
センター試験受験者数と大学入学志願者に占めるセンター試験受験者数割合

○ 大学入学志願者に占めるセンター試験受験者数の割合は約72%となっており、各大学の入学者選抜においてセンター試験は大きな役割を果たしている。

(単位:千人)

センター試験受験者数

大学入学志願者に占めるセンター試験受験者数の割合



各国の大学入学者選抜の概要について

国名	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ		中国	韓国	日本
大学進学のために受験が必要な学力試験	共通試験のみ	共通試験のみ	共通試験のみ	共通試験のみ		共通試験のみ	共通試験のみ	大学の試験(+共通試験)
入学者の決定方法	原則として、アビトゥーア取得者は希望する大学、専攻に入学可能 ※志願者が定員を上回る事が予測される場合は大学入学財団がアビトゥーアの点数及びアビトゥーア取得後経過した期間(待機期間)に基づき、定員の40%を選考。残り60%の入学定員は、各高等教育機関がアビトゥーア試験の成績、面接等により独自に選考。	原則として、バカロレア取得者は希望する大学の第1期課程に無選抜で入学できる。 ※グランゼコール入学はバカロレア取得後、リセ付設の準備級を経て各学校入学者選抜合格が必要(準備級を経ずに直接入学する学校も一部ある)。	主としてGCE・Aレベル試験の成績により決定。他には、中等学校からの内申書や面接結果も考慮。	開放型:ハイスクール卒業あるいはそれと同等の資格を持つ者はすべて入学可能(短期大学等)。 基準以上入车型:主としてハイスクールの成績とSATやACTの結果に基づき一定の基準に達している者は入学可能(多くの州立大学)。 競争型: SAT、ACTの得点及びハイスクールの成績に加え、小論文や面接などを課し、多様な基準に基づき総合的に判定(有名私立大学等)。		一般的な選抜は、全国統一入学試験に加え、高級中学で作成された内申書をもとに選抜。	一般的な選抜は、大学修学能力試験の成績で1次試験と個別大学の入学試験により選考。生生活記録簿、エッセイ、面接等により選抜。	国公立:大学入試センター試験と個別大学の入学試験により選考。 私立大学:個別大学の入学試験により選考(大学入試センター試験を利用する場合もある)。 この他、推薦・AO入試など学力試験を課さない入試もある。
共通試験の名称	アビトゥーア試験	バカロレア試験	GCE・Aレベル	SAT	ACT	全国統一入学試験 <small>※原語:普通高等学校招生全国统一考試</small>	大学修学能力試験	大学入試センター試験
共通試験の受験資格	ギムナジウムにおける履修要件・成績要件を満たすこと。	リセ(高校)又は職業リセの最終学年で受験。	シックスフォーム(義務教育修了後の高等教育進学課程)進学後、17歳段階でGCE・ASレベルに4科目程度合格し、後期中等教育修了時(18歳)に3科目程度受験。	なし		高級中学段階の学校を卒業(卒業見込みの者を含む)しているか同等の学力を持つ者	高等学校を修了(修了試験はない)した者及び修了見込みの者	高等学校において所定の課程を修了(修了試験はない)した者及び修了見込みの者
大学型高等教育への進学率 (2010年) ^{※1及び2}	36%	(約45%) ^{※3}	41%	74%		17%	71%	51%
大学進学のための主な後期中等教育機関	ギムナジウム、総合制学校	リセ、職業リセ	シックスフォーム、継続教育機関	ハイスクール		高級中学	高等学校	高等学校
大学進学のための主な後期中等教育機関進学率 ^{※4}	41%	87%	88%	93%		87.5% ^{※5}	100%	98%

※1 出典:『OECD INDICATORS 2012』より、ドイツ及びイギリスは留学生を除いた進学率。

※2 「大学型高等教育」とは、主として理論中心・研究準拠型プログラムで、フルタイム履修期間3年以上(4年以上の場合が多い)。大学に限定されない。但し、アメリカは非大学型教育を含む。(改訂版・国際教育標準分類に準拠)

※3 出典は『「教育指標の国際比較」(平成25(2013)年版)』のリセ(高校)及び職業リセからの高等教育機関(グランゼコールを含む)への進学率であり、『OECD INDICATORS 2012』の定義とは異なっているため括弧書きで表記。

※4 出典:『「教育指標の国際比較」(平成25(2013)年版)』

※5 出典:『中国教育統計年鑑2010』